

ひまわりプロジェクト

今年度の総括

◇協力件数の推移

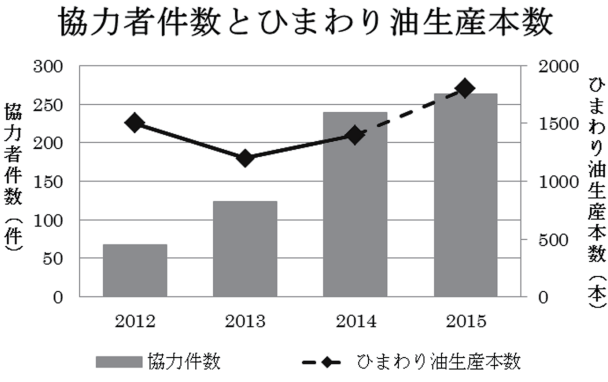
二〇一二年から始まり、今年で四回目を迎えたひまわりプロジェクト。年間の集大成である「ひまわり感謝祭」が開催されるにあたり、今年度のひまわりプロジェクトについて振り返ってみたいと思う。

一月の末頃に協力者募集を開始し、集まった申込みは二五六件だった。更に、「申込みはしていないが種を譲ってもらい、ひまわりを植えた」という方々からも種が寄せられており、十一月十一日時点で協力者総数が二七五件まで増えた。昨年の総件数二三八件と比べると、この時点で三七件も上回っている。年々増加する協力者件数から、温かい支

援の輪が全国へ広がっていることがわかる。

◇種の収穫状況と来年の課題

福島へ寄せられた種については、昨年よりも中身が詰まってふっくらしたものが多く、昨年は台風や大雨の影響で日照時間が短かったが、今年は晴れの日が続き大きな花が満開に咲き乱れる地域が多かったようだ。しかし、収穫の時期になると長雨が続き、種を十分に乾燥することができず、種がカビてしまったという報告が多く寄せられた。それに加え、種の乾燥のため立ち枯れさせている時の鳥による被害が全国的に見られた。去年も鳥の被害が多



く、対策法等を共有するなど試みたが、大幅に被害を軽減することは困難であった。そのような中で、今年度数年目の栽培となる協力者からは、その経験からあみ出した対策法やその体験談などが寄せられている。ひまわり栽培の現場からの経験者の言葉を共有し、種の収穫量アップを目指していきたい。

◇各地で行われた交流

夏から秋にかけては、今年も「ひまわり大使」の派遣が行われた。夏の七月三十一日から八月六日まで「子どもひまわり大使」たちが、岡山県笠岡市と福岡のグリーンコープ、熊本県小国町の皆さんとの交流を深め、福島支援への感謝の気持ちを伝えるだけでなく、福島の今と復興を伝えるという使命を果たすため、福島について自分たちが調べたことや感じたことについて発表を行ってきた。

八月一日・二日には、愛知県東栄町の皆さんと交流し、広大にひろがるひまわりを見学した。八月八日に

は宮城県の一財団法人 R e R o o t s の皆さんのもとにベシックスが訪問し、福島市とは異なった被災地の現状を垣間見た。九月十二日・十三日には神奈川県未来連福プロジェクトの皆さんと交流。鎌倉市、藤沢市などでひまわりを栽培しているという方々と一堂に会することができた。このような顔を合わせての交流を通して全国とのつながりを深めていくことで、より継続的で強固な相互支援ネットワークの形成を目指している。

◇グッドデザイン受賞

このようにひまわりを通して全国との絆づくりを行うひまわりプロジェクトは、二〇一五年度のグッドデザイン賞を受賞した。審査員のコメントには、「ひまわりの種がふくしまとみんなを繋ぐ」をテーマにひまわり油「みんなの手」などの商品づくりを介して、地域間の絆づくりを推進していくプロジェクトである。福島県外の年々増加しつつある栽培協力者の手助けによって継続されている活動は、ふくしまを忘れないようにする環境保護意識や災害に備えた地域間ネットワークづくり、障がい者の社会参加の機会づくりなど様々な意義をもった活動であることが評価された。」とあった。

被災地支援という短期的な役割だけでなく、社会に対して多様な長期的な役割を持つ「ひまわりプロジェクト」。社会的に評価され、多くの人びとから高い関心を集めている。

◇より強い絆づくりへ

今後も福島に住む障がいのある仲間たちや子どもたちの支援はもちろん、ひまわりを介して全国各地との相互支援ネットワークの形成を目指していく。そのために、これまで築いてきた全国の協力者とのきずなを大切にしていきたい。今年度の十二月十二日に開催される「ひまわり感謝祭」は、福島に集う協力者との交流の機会ともなる。

協力者の方々には現地でいきいきと活動する福島の人々と直接触れ合うことができ、福島に住む人々には支援をして下さっている方々に直接感謝を伝えることができる。五年目のひまわりプロジェクトに向けて、福島と全国の絆がより深まるような感謝祭としたい。

(Y・K)

